

官民協働海外留学支援制度 拠点形成支援事業 活動実績報告資料

＜ふくしまの未来を担うグローバル人材育成事業＞ 令和7年度活動報告

■事業背景や事業目的

福島県は、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故からの復興・創生、人口減少、少子高齢化といった乗り越えるべき課題を多く抱えている。子どもたちが自らの力で豊かな人生を切り拓き、多様な他者とともにそれらの課題に向き合い、豊かな社会や地域を創造する力を育むため、第7次福島県総合教育計画において、「学びの変革」を柱とし、個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びを推進している。施策の一つとして、グローバル社会で活躍する人材育成を推進し、立場や考え方、強みの異なる多様な人々と対話・協働し、新たな技術や方法、価値を創造していく教育を目指している。本事業における海外での探究活動をとおり、ローカルな課題をグローバルな課題と結び付けて考えながら、福島の課題を国内外の人々と共有し、多様性を力に変える教育が深化できると考える。そして、福島県の産学官が連携し、それぞれの知見を生かして地域ぐるみで「地域課題等を自分事として捉え、広い視野と多角的な観点で探究し解決するイノベティブなグローバル人材」を育成することが目的である。

地域協議会基礎データ

【地域協議会代表者】

福島県教育委員会 教育長 鈴木竜次

【運営事務局】

福島県教育庁高校教育課

【運営事務局の役割】

- ・事業全体の統括・運営
- ・事業計画の立案、予算の立案
- ・事前・事後オリエンテーションの実施
- ・報告会の開催
- ・派遣留学生の選考マニュアルの策定
- ・派遣留学生の留学計画変更申請の承認
- ・派遣留学生の計画実行の管理
- ・派遣留学生への奨学金等の支給
- ・地域事業の運営資金の管理
- ・福島県グローバル人材育成基金の管理
- ・福島県グローバル人材育成基金の協力依頼
- ・日本学生支援機構への報告

【地域協議会の構成員及び役割】

(ア) 地域企業・経済団体 【産】

- ・福島県商工会議所連合会
- ・福島経済同友会
- ・福島県経営者協会連合会

(役割) 事前・事後オリエンテーションの協力、広報、派遣留学生の募集・選考、地域企業等からの寄附の募集

(イ) 高等学校 【学】

- ・福島県高等学校長協会
- ・福島県私立中学高等学校協会

(ウ) 高等教育機関 【学】

- ・国立大学法人福島大学
- ・独立行政法人国立高等専門学校機構福島工業高等専門学校

(役割) 事前・事後オリエンテーションの協力、広報、派遣留学生の募集・選考、プログラムの企画・運営、派遣留学生の計画実行の管理、地域企業等からの寄附の募集

(エ) 地方公共団体 【官】

- ・福島県教育委員会
- ・（公財）福島県国際交流協会

(役割) 事前・事後オリエンテーションのプログラム全体のテーマ・コンセプトの策定、広報、派遣留学生の募集・選考、地域企業等からの寄附の募集

■プログラム全体の概要

産学官と連携した本事業を通して、グローバルな視点で震災等からの復興・創生を目指す福島県の発展に貢献する人材の輩出を目指し、国境を越えた探究活動を通じて得たものを地域に還元し、地域の未来を創るグローバル人材の育成を図る。そのために、本事業におけるプログラムにおいて、地域や世界の課題にグローバルな視点で当事者意識を持って解決に取り組む意識を向上させ、福島県の抱える課題や社会課題に関心を持ち、海外で、その課題の探究活動を行う生徒を支援する。

派遣留学生は、「総合的な探究の時間」における「課題設定」、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ・表現」などの探究のプロセスを通して、地域における課題を発見し、グローバルな視点でそれを解決できるような手立てを考え、留学計画を立てるとともにアンケートやインタビューを通じた探究活動を行うこととする。さらに、留学先においては、福島県のよさを発信するアンバサダー活動も行うこととする。また、留学後は、結果を考察し、その成果を指定された成果報告会や自身の学校で発表し、成果の共有と普及を図る。その際には、留学の魅力や留学で得た体験を周りに伝えるエヴァンジェリスト活動も行うようにする。

<育成したい生徒像>

- ①海外でも積極的に行動できると思う生徒 →国際感覚を身につけ、失敗を恐れず挑戦するマインドの構築
- ②地域や世界の課題を本気で解決したいと思う生徒 →地域や世界の課題に、グローバルな視点で当事者意識を持って解決に取り組む意識の向上
- ③将来、地域の活性化に貢献したいと思う生徒 →留学を支援した地域・企業に対する生徒の関心・愛着の高まり

■地域探究コース概要

コース名：「ふくしま探究コース」

ふくしま探究コース名	ねらい
①原子力災害からの復興コース	廃炉、再生可能エネルギー、ロボットなどの先端技術分野に科学的・社会的なアプローチから、当県の復興に寄与する人材を育成する。
②原子力災害からの地域創造コース	人口減少問題が先鋭化する中、グローバルな視点も持ちながら地域と協働するなど地域創造に寄与する人材を育成する。
③観光交流による地域活性化コース	観光などによる交流を促進することにより関係人口を増加させ、地域活性化に寄与する人材を育成する。
④農林水産業やものづくり産業による地域活性化コース	農林水産業やものづくり産業の魅力化や、関連した商品開発等のビジネスをとおして、風評払拭や地域や産業の活性化に寄与する人材を育成する。
⑤多文化共生コース	多様な見方・考え方や異なる文化への理解を深め、多くの人々との対話と協働をとおして多様性に寛容な地域社会を構築する人材を育成する。

壮行会
事前オリエンテーション

海外留学

事後オリエンテーション

報告会

■ 壮行会・事前オリエンテーション

令和7年6月22日（日）実施 於：福島県自治会館

①目的

留学出発に向け、支援企業による講演や、先輩トビタテ生や派遣留学生同士の交流を通して、自分の留学計画や探究活動をブラッシュアップする機会とする。

②具体的な内容

- ・派遣留学生は、目標設定シートを作成し、海外留学をととした自己の成長を検証できるようにする。
- ・派遣留学生が一堂に会し、支援企業による講演や専門家による探究活動に対する助言により、留学計画や探究活動の分析・考察を行う。
- ・グループワークによる情報共有や意見交換を通して、留学計画や探究活動に対する意欲を高める。
- ・海外での危機管理について情報提供する。

③プログラム

【壮行会】

【事前オリエンテーション】

1 「ふくしまの未来を担うグローバル人材育成事業」地域協議会代表挨拶 *福島県教育委員会教育長 鈴木竜次	1 出席企業の紹介
2 独立行政法人日本学生支援機構挨拶 *グローバル人材育成部 グローバル人材育成企画課長 松田直久様	2 「とまりぎ」東北支部代表者による留学体験発表 *「日本とカナダのジェンダー教育の違い」 福島工業高等専門学校 4年 田中陽菜様（トビタテ9期生）
3 派遣留学生代表決意表明 *白河高等学校 2年 小澤知泰	3 支援企業による講話 *「トビタテから始まった、終わりなき探究の旅」 株式会社ビズリーチ 新卒事業部 松永圭世様（トビタテ3期生）
4 写真撮影	4 グループワーク（派遣留学生、支援企業、「とまりぎ」東北支部） *探究活動計画の共有、目標設定シートの作成
	5 支援企業による激励のことば *株式会社ナミック 代表取締役 山下楠美子様
	6 派遣留学生代表御礼のことば *郡山高等学校 2年 本田美織
	7 事務連絡

※派遣留学生 30名
※当日参加支援企業等 15名
※「とまりぎ」東北支部協力者 9名



派遣留学生30名と支援企業等の皆様、「とまりぎ」東北支部の皆様、日本学生支援機構の皆様、地域協議会の皆様とともに、留学の前途を祝して

壮行会
事前オリエンテーション

海外留学

事後オリエンテーション

報告会

■ 留学事例①

- 派遣留学生 本田 美織(福島県立郡山高等学校 英語科 2年)
 - コース ふくしま探究コース(多文化共生コース) ○留学先 アメリカ(ニューヨーク)
 - 留学計画のタイトル「人種差別の歴史と現代の世代との対話から切り込むルッキズム」
 - 探究活動の問い「ルッキズムが引き起こす摂食障害や差別などの社会問題を解決していくために必要な取り組みは何か？」
- ☆感想

留学前、行きたい施設・団体の下調べやコンタクトをとることに力を入れました。現地でのフィールドワークにおいて、事前学習ができていたことで、より内容を濃く知ることができました。

多民族国家のアメリカにいたことで、多様な価値観と文化を学べました。語学学校ではトルコや韓国の留学生と交流し、互いの文化について話し合いました。ジャパンフェスティバルや博物館・美術館を巡って、ニューヨークには多様な文化を知る機会が多くあり、それが多文化共生のカギになっているのではないかと考えました。黒人差別についての展示は心に刺さるものがあり、差別の中でコミュニティを築き権利活動をしていくことの重要性を感じました。

今後は多文化共生社会を実現するため、様々な文化について知るイベントや施設の発信、差別を受けた人同士のコミュニティづくりなどの活動で、探究テーマにアプローチしていきたいと思います。



New York Language Center(Upper West)で仲良くなった仲間と



CIVIL RIGHTS (公民権・市民権) にまつわる展示

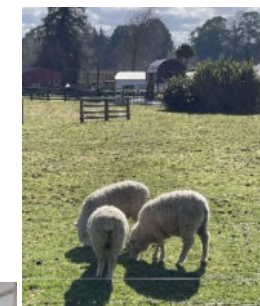
■ 留学事例②

- 派遣留学生 安田 力(福島県立福島高等学校 普通科 2年)
 - コース ふくしま探究コース(農林水産業やものづくり産業による地域活性化コース) ○留学先 イギリス(ロンドン)
 - 留学計画のタイトル「異なる農業の形から福島の未来の農業を考える: 農業の在り方と食文化の比較を通して」
 - 探究活動の問い「福島の食料自給率を上げるにはどうすれば良いか～日本とイギリスの農業の取り組み方の違いを比較して～」
- ☆感想

イギリスでの探究活動として日本の課題である食料自給率向上の糸口を探るため、農場にて農作業を体験しました。私は、この経験を通じて、気候や土壌条件に合わせた工夫を知ることができ、持続可能な農業の在り方を深く学びました。また、最新技術や効率的な農業の取り組みを目の当たりにし、これらを日本の農業に応用する可能性について考える視点を獲得することができました。

農家の方々との交流は、食と環境に対する考え方を多角的に捉え直し、私の視野を大きく広げてくれました。さらに、英語でのコミュニケーションに挑戦することで、農業を国際的な視点から捉える力を養うことができました。

この貴重な体験は、単なる知識習得に留まらず、将来の進路や福島県への貢献を考えるうえでかけがえのない財産となりました。この経験で得た学びを、今後の人生に活かしていきたいと思います。



広大な農場



EF International Language Campus Londonの仲間と

壮行会
事前オリエンテーション

海外留学

事後オリエンテーション

報告会

■事後オリエンテーション

令和8年1月31日（土）実施

於：福島県環境創造センター交流棟
（コミュタン福島）

①目的

自身の留学経験を振り返り、事前に設定した目標の達成度をふまえて将来のキャリア形成を考える機会とし、報告会に向けて発表資料を作成する。

②具体的な内容

- ・海外留学や海外での働いた経験がある起業家から、インタラクティブな講演をしていただき、自身の留学と照らし合わせながら、今後のキャリア形成のヒントを得る。
- ・派遣留学生と先輩トビタテ生とのグループワークを行い、対話を通して自己の探究活動を振り返り、どのような学び（自己の変容）があり、今後の行動にどのように活かすかを整理する。
- ・報告会に向けて、プレゼンテーション資料の作成を行う。

③プログラム

1	開会式 ①「ふくしまの未来を担うグローバル人材育成事業」地域協議会代表挨拶 *福島県教育委員会教育長 鈴木竜次 ②来賓紹介
2	講演 ①演題「グローバル思考で考える 福島のこれから」 講師 株式会社ライフブリッジ 代表取締役 櫻井亮太郎 様 株式会社オーナー 代表取締役社長 佐々木敦斗 様（ファシリテーター） ②派遣留学生代表御礼の言葉 福島県立安積黎明高等学校 2年 中村花音
3	グループワーク *アドバイザー 「とまりぎ」東北支部の方々（6名）
4	プレゼンテーション資料作成 *アドバイザー 「とまりぎ」東北支部の方々（6名）
5	閉会式 ①派遣留学生へのメッセージ *「トビタテ！留学JAPAN」プロジェクトディレクター 荒畦悟 様 ②事務連絡



講演の様子



グループワーク



荒畦様からの熱いメッセージ



報告会に向けて、決意を新たに

壮行会
事前オリエンテーション

海外留学

事後オリエンテーション

報告会

■報告会

令和8年2月21日（土）実施 於：福島県環境創造センター交流棟
（コミュタン福島）

①目的

海外での探究活動での学びの経緯や自己の変容、将来の展望などの留学の成果を発表し、支援企業・団体の皆様へ本事業の効果を周知する。

②具体的な内容

派遣留学生30名によるポスターセッションおよび代表の派遣留学生6名によるステージ発表。

ポスターセッションは、6ブースに分かれ、派遣留学生1名あたり2回を行った。

各セッションごとに来場者からの質疑応答を受付け、留学経験や自らの課題感についての理解を深めた。

ステージ発表では、支援企業の担当者および大学教授から発表についての講評をいただき、留学経験を次のステップへと進める足がかりとした。

③プログラム

1	開会式 ①「ふくしまの未来を担うグローバル人材育成事業」地域協議会代表挨拶 *福島県教育委員会教育長 鈴木竜次 ②来賓紹介
2	ポスターセッション *ファシリテーター 「とまりぎ」東北支部の方々（6名） 6ブース、派遣留学生1名あたり10分程度の発表と質疑応答、2巡（観覧は自由）
3	ステージ発表 代表6名 派遣留学生1名あたり10分程度の発表と質疑応答
4	閉会式 ①講評 福島大学 国際交流センター副センター長 何敏 様 福島トヨタ自動車株式会社 総務部人事課 松坂航多 様 ②派遣留学生代表挨拶 福島県立福島高等学校 2年 小賀坂有珠 ③事務連絡



ポスターセッション



ポスターセッション



ステージ発表



派遣留学生代表挨拶

「言語を超えた多文化共生社会を福島に」 新田和奏（ふくしま探究コース）

福島県立磐城高等学校（2学年） オーストラリア メルボルン（留学期間 19日間）一緒に学んだ ILSC Englishの仲間たち



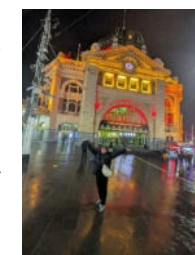
ILSC Englishでのプログラム修了を記念して

①留学前の活動と留学の目的

ふくしまアドバンスラーニング探究ゼミにおいて差別や多様性について話し合う中で、多文化共生社会に興味を持った。外国人の受け入れが福島の課題の解決につながるということに気づき、いわき市国際交流協会の方の話やいわき市に移住しているカレー屋さんの店長の話聞いた。アンケートやインターネット調査も行い、日本人の多文化共生への意識や他国の取組事例を理解した。日本には、日本語や文化がわからず困っている外国人がたくさんいる。日本語を教えるボランティアの不足や若年層のイベントへの参加が少ないことなど、様々な課題があることがわかった。探究をしていく上で、多文化共生が進んでいる地域と福島の違いは何か、どうすれば日本人も外国人も互いを尊重して暮らせるだろうかという疑問を抱き、その解決のヒントを留学によって得たいと考えた。

②留学の実際

- ・語学学校で、様々な国の学生と交流し、異文化理解を深め、生徒へのアンケート調査や先生へのインタビューを行った。
- ・移民博物館、ビクトリア州立図書館を訪れ、オーストラリアの移民の歴史について学んだ。
- ・Study Melbourne Hub、AMES Australiaを訪問し、オーストラリアの外国人受け入れに対する取組や英語を教えるボランティア、異文化交友イベントなどについて話を聞いた。
- ・語学学校が主催するイベントや現地の人と交流できるイベントに複数参加した。
- ・福島県の魅力をまとめたパンフレットを作成し、語学学校の生徒やイベントで交流した方々に配付した。



フリンダース・ストリート駅



王立博覧会ビル

③留学の成果

オーストラリアでは当たり前のように多文化共生や外交の文化を学ぶことができるということがわかった。言語交換のイベントで現地の人と留学生や移民が積極的にかかわっていた。移民や留学生に対する英語を学ぶためのサポートや、職を探すためのサポートが充実していた。ハブといった移民や留学生のコミュニティの存在が、心の支えにもなって、孤独感や疎外感をなくすことに意味を持っていた。

④留学後の活動

言語の壁を乗り越えるためのサポートや外国人同士と外国人と日本人両方の友人作りの場、異文化への理解が必要であり、どれも福島県では不足しており、対処していく必要がある。日本人と外国人をつなぎ、互いに言語や文化を学びあえる場があれば、多文化共生が推進されると考える。そのことにより、地域の日本語教室でのボランティア活動への姿勢が変化し、互いに学び合うことを意識するようになった。模擬国連や福島県WML高校生国際サミット、カタリバオンライン「好奇心のとびら」、マイプロジェクトアワード、待兼山会議への参加、プロジェクトフェアでの出展、言語交換イベントを企画・実施し、様々な立場の方々と交流を通して、真の多文化共生社会構築を目指し、取り組んでいる。



好奇心のとびら



プロジェクトフェア



言語交換イベント

「浪江町とランカスター市を繋ぐ架け橋プロジェクト」 チームなみえ 賀澤京花 小池瑠花（ふくしま探究コース）

福島県立ふたば未来学園高等学校（2学年）

アメリカ ランカスター ロサンゼルス（留学期間 24日間）

①留学前の活動・留学の目的

東日本大震災からの復興に向けて、自分たちにできることは何かを考え、双葉郡内の町村の魅力をアピールする広報活動に取り組んでいた中で、特に小池が在住している浪江町について、コミュニティの弱さなどから帰還した町民が心のストレスを抱えていることを知り、もっと貢献したいという思いが強くなった。また、浪江町をアピールすることが、双葉郡をアピールすることにもつながると考えた。浪江町は、水素によるまちづくりを推進している。その取り組みについて浪江町役場産業振興課を訪問し、理解を深め、水素連携都市であるランカスター市の企業を紹介していただいた。浪江町で活躍している方々へのインタビューを行い、アピール動画を作成し、ランカスター市の方々に浪江町のことを知ってもらう活動をして、町民の心の復興を目指すことを留学の目的とした。

②留学の実際

- ・水素企業ENS0とFPH2を訪問し、ランカスター市における水素の活用の実態を理解した。
- ・ENS0の仲介により、ランカスターバプティストスクールに通学し、現地の高校生と交流し、浪江町の魅力をアピールする活動を行った。浪江町の伝統文化である田植え祭りで使う扇子をイメージして、高校生たちとともにオリジナルの扇子作りにチャレンジした。また、浪江町民への応援メッセージを書いてもらった。
- ・ランカスター市庁舎を訪問し、レックス・パリス 市長と対話をし、自分たちの思いを伝えた。
- ・語学学校で、プレゼンテーションに必要な英語力を高めた。

③留学の成果

日本の水素事業は発展途上の段階にあるので、先進的な取組を理解できたことは、今後のまちづくりのヒントにもなった。また、直接交流することで、自分たちの思いに共感してもらえて、活動に協力していただけたので、人とのつながりを改めて考えることができた。現地の方々に浪江町に行ってみたいと思ってもらえることができた。実際に、今年の夏頃に、ランカスター市の学生が浪江町に来町することが実現予定となった。浪江町の方々からも、感謝の言葉をいただき、行動することの大切さを実感した。

④留学後の活動

浪江町でのENS0歓迎レセプションに参加し、留学の報告を行った。浪江町長から、ランカスター市との関係継続のために力を貸してほしいとお願いされた。福島県英語プレゼンテーションコンテストやマイプロジェクトアワードに出場し、自分たちの探究活動を同世代の高校生へ周知した。応援メッセージは、浪江町の十日市（地元のお祭り）で展示後、道の駅なみえで展示してもらい、浪江町民の方々だけでなく、浪江町を訪れた人たちにも見ていただけた。



LBSでのプレゼンテーション



学生の名前を漢字表記
（扇子に使用）



ホストファミリー



FPH2訪問



パリス市長との記念撮影



メッセージボード

■ 信越半導体株式会社

①支援のきっかけ

福島県内に工場を持つ企業として、県内の高校生を応援したいという思いがあったから。また、事業の目的であるグローバルな視点で地域課題を解決できる人材の育成に共感したから。

②事業に参加して得た喜び

企業としても人材育成には力を入れている。海外留学を経験し高校生が成長していくリアルな場面に携われるのは、その高校生の成長を実感できるのでとても嬉しい。

③高校生に期待すること

知見をどんどん広めて、たとえ福島県を出たとしても、いずれ福島県に戻ってきて活躍してもらいたい。



信越半導体株式会社 白河工場 事務部
人事グループ長 安司裕一 様



■ 株式会社東邦銀行

①支援のきっかけ

福島県の未来を担う人材育成を目的とした事業であり、人口減少などの福島県が抱える地域課題の解決につながる活動をしているので、地域のために挑戦し続ける地方銀行として力になりたいと考えたから。

②事業に参加して得た喜び

大きな夢を持った高校生と関われることと、その夢の実現を応援できることが最大の喜びだと感じている。

③高校生に期待すること

この事業を通して多くの人と関わり、たくさんの知識や経験を重ねて自分の力とし、今後、福島県で活躍してもらいたい。



株式会社東邦銀行 人事部
担当部長 八島光代 様

信越半導体株式会社様、株式会社東邦銀行様には、派遣留学生の選考から報告会に至るまで、その都度サポートしていただきました。派遣留学生とも積極的にコミュニケーションをとっていただき、貴重な御意見や温かい励ましの言葉を頂戴しました。誠にありがとうございました。

■高等学校等関係者

- ・留学に興味・関心があってもなかなか踏み出せない生徒がいる中、この事業の活用は生徒の背中を押してくれた。支援企業等の皆様に、深く感謝申し上げます。
- ・普段の学校生活では見られない積極的な姿が見られた。
- ・学校での探究学習をさらに深化させることが、留学での経験により可能になった。
- ・探究学習で何をしたらいいか不鮮明だった生徒が、他の留学生との交流を通して自分を成長させている様子がうかがえた。
- ・社会人の先輩として、企業の方々からアドバイスいただけたことは、視点を変えて問いに向き合うことを可能にしてくれた。
- ・高校で行った派遣留学生の報告を聴講した在校生から、「私も留学してみたい」という声が多くあがり、海外留学の機運上昇につながっていると感じた。
- ・派遣留学生のエヴァンジェリスト活動やアンバサダー活動は、留学を次の行動へとつなげる機会になっていた。福島県への思いも、さらに強くなっている。
- ・留学計画の作成や奨学金支給の手続きなど、業務負担となっている面もあった。（国と県との手続きの違いも含めて。）
- ・ビザ関係の取扱いやエージェント、ホストファミリーの都合に振り回されていた生徒もいたので、安心して留学できるための相談窓口があるといい。



学校での探究学習の様子



企業の方とのディスカッション

■大学等

- ・高校生の時に留学した経験は、今後の将来にとって価値のあるものになるので、大学での学びにもつなげてほしい。
- ・大学生の留学経験者が、オリエンテーションなどのサポートに入ることで、お互いに自己の考えを深めることができたのではないかな。
- ・世界情勢が不安定な中、率先して海外へ足を向ける高校生の意思はすばらしい。
- ・派遣留学生は、「当たり前」「普通」とは何なのか、異文化を相対的に考える一步を踏み出せたのではないかな。
- ・海外留学が観光とは違う意味を持つことは自覚しているはずだが、それが昇華できないと自分の力にはならないので、綿密な計画と積極的な行動力を求める。



報告会で講評をいただいた
福島大学国際交流センター 何敏 様

■ 地域全体の留学機運醸成の進捗

ふくしまの未来を担うグローバル人材育成事業による留学生の派遣により、トビタテ！留学JAPAN採用者数は大幅に増加した。また、採用校数も増え、新規で4校から採用された。

派遣留学生が、在籍校等で、自身の留学経験を周知したことにより、来年度採用の募集説明会（オンライン）の参加者数は、76人（3月19日現在）で、前年度の参加者数を上回った。福島県教育委員会公式noteや福島県教育庁高校教育課公式Instagramでの情報発信、テレビ番組「キビタンGO!」での報道などを通して、広く留学生の活躍を周知したことも影響したと考えられる。また、事業紹介の動画も作成し、福島県教育庁高校教育課YouTubeで公開している。

トビタテ！留学JAPAN 採用者数

	2019年度	2020年度	2023年度	2024年度	2025年度
採用者数	9人	6人	8人	5人	33人
採用校数	5校	5校	6校	3校	10校

福島県教育委員会公式note <https://fukushimapref-edu.note.jp/>
 福島県教育庁高校教育課公式Instagram <https://www.instagram.com/k.koukoukyouiku/>
 福島県教育庁高校教育課公式YouTubeチャンネル <https://x.gd/UnNnL>

■ 派遣留学生のデータ

①コース別派遣留学生数（令和7年度派遣留学生30名）

マイ好奇心探究：1名 社会課題探究：8名 STEAM探究：1名 スポーツ・芸術探究：1名 ふくしま探究：15名、2チーム（4名）

②派遣留学生の在籍学校 *（ ）内の数字は、派遣留学生の人数

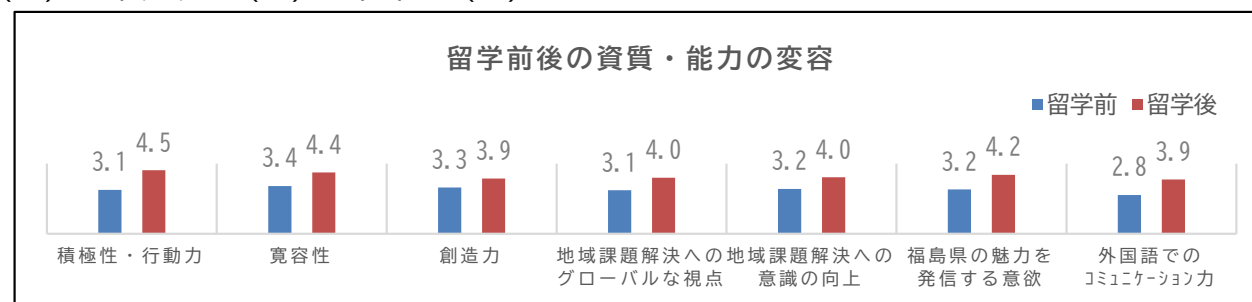
福島高校（8） 安積黎明高校（1） 郡山高校（3） 光南高校（1） 白河高校（1） 葵高校（4） 磐城高校（1）
 ふたば未来学園高校（8） 福島工業高等専門学校（2） 第一学院高校（1）

③派遣留学生の留学先 *（ ）内の数字は、派遣留学生の人数

オーストラリア（6） アメリカ（6） イギリス（4） ニュージーランド（5） カナダ（2） シンガポール（1） マレーシア（1）
 インドネシア（1） ケニア（1） ポルトガル（1） イタリア（1） ドイツ（1）

④派遣留学生の自己評価

5点満点で、7項目について、留学前と留学後の自分の資質・能力の変容を自己評価してもらった。結果は右のグラフのとおりである。項目によって差はあるが、すべての項目で留学後に力が高まっていることがわかる。留学が、自己の成長に大きく影響しているといえる。



■支援企業一覧

○令和7年度（寄附申出順）

福島民友新聞株式会社／福島県南土建工業株式会社／株式会社東日本計算センター／福島テレビ株式会社／広栄電設株式会社／東信建設株式会社／株式会社ニノテック／福島コンピューターシステム株式会社／株式会社ジェブ／株式会社安藤・間／佐藤工業株式会社／一般財団法人ふくしま未来研究会／藤田建設工業株式会社／株式会社朝日ラバー／酪王協同乳業株式会社／東開工業株式会社／福島ヤクルト販売株式会社／株式会社テック・アイ・マシナリー／株式会社福島県中央計算センター／味覚糖株式会社／株式会社アイデアマーケット／福島県立磐城高等学校同窓会九州支部／キョウワプロテック株式会社／福島ガス株式会社／株式会社クラシマ／株式会社福島放送／福島キャノン株式会社／株式会社福島民報社／株式会社大東銀行／ひまわり信用金庫／株式会社テレビユー福島／日本生命保険相互会社／東洋システム株式会社／MGCエージェンシー株式会社白河事業所／福島信用金庫／会津信用金庫／東北電力株式会社福島支店／福島発電株式会社／豊通りチウム株式会社／株式会社うすい百貨店／佐藤株式会社／株式会社シグマ／日本郵便株式会社東北支社／郡山信用金庫／株式会社ハニーズホールディングス／白河信用金庫／株式会社南会西部建設コーポレーション／福島トヨタ自動車株式会社／テンワス株式会社／株式会社オノヤ／野村アセットマネジメント株式会社／株式会社シャインオートトレーディング／信越石英株式会社／信越半導体株式会社／株式会社福島情報処理センター／CRSスポーツ工業株式会社／株式会社ナミック／株式会社福島銀行・株式会社ムゲンエスレート／有機合成薬品工業株式会社／株式会社Hajimari／林精器製造株式会社／シンエツエスアイセミコン株式会社／株式会社東邦銀行

○令和6年度（寄附申出順）

株式会社アイデアマーケット／いわき信用組合／株式会社昭栄電気産業／株式会社昭栄エンジニアサービス／信越半導体株式会社／株式会社作山工務所／いわき電気工業株式会社／アース建設株式会社／東洋システム株式会社／志賀塗装株式会社／株式会社大東銀行／シンエツエスアイセミコン株式会社／テクノメタル株式会社／信越石英株式会社／ミライズ株式会社／株式会社東邦銀行／佐藤株式会社／一般財団法人ふくしま未来研究会／株式会社社設計／藤田建設工業株式会社／弁護士法人滝田三良法律事務所／有機合成薬品工業株式会社／株式会社南会西部建設コーポレーション／あぶくま信用金庫／株式会社テック・アイ・マシナリー／株式会社STAYGOLD／株式会社テレビユー福島／株式会社デイリーサービス／株式会社シグマ／株式会社福島民報社／株式会社福島中央テレビ／株式会社福島放送／佐藤工業株式会社／若松ガス株式会社／保土谷化学工業株式会社郡山工場／株式会社ウェブブランディング／株式会社兼子組／福浜大一建設株式会社／株式会社福島銀行・株式会社ムゲンエスレート／日本郵便株式会社東北支社／丸三製紙株式会社／株式会社アサカ理研／東北電力株式会社福島支店／株式会社ナミック／CRSスポーツ工業株式会社／福島県商工信用組合／福島スポーツエンタテインメント株式会社／會澤高圧コンクリート株式会社福島RDMセンター

